

緊急消防援助隊情報

令和4年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック 合同訓練の実施結果について

広域応援室・青森県実行委員会

令和4年度緊急消防援助隊北海道東北ブロック合同訓練は、青森県開催における特色を盛り込み、「各訓練にブラインド項目を多く取り入れた指揮能力、情報共有・連携力の向上」「過去の実災害を教訓とした通信体制の確保」「救急隊の効率的な運用と医療機関との連携強化」「新型コロナウイルス感染症に対する国の対処方針等に基づく訓練の企画」を推進事項に掲げ、警察、自衛隊、医療機関等の関係機関を含めた連携活動能力の向上及び応援体制の向上を図ることを目的として実施した。

また、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として当実行委員会において独自の指針を策定、参加者の感染防止対策に万全を期した。

①各訓練にブラインド項目を多く取り入れた指揮能力、情報共有・連携力の向上

・進出拠点を訓練当日にDJSで示すなど部隊参集訓練においてもブラインドを取り入れ、また、図上及び実動訓練においても、詳細な訓練項目を示さず、応援相互に指揮能力の向上と他機関との情報共有・連携を図る訓練を実施。

②過去の実災害を教訓とした通信体制の確保

・過去の実災害において、電話や無線通信等が不通となり情報共有に苦慮した経験から、効果的な通信体制の確保のための訓練を実施。

③救急隊の効率的な運用と医療機関との連携強化

・大規模災害時のトリアージ・応急処置等について、医療機関と情報共有・連携を行い、効果的な運用をするための訓練を実施。

④新型コロナウイルス感染症に対する国の対処方針等に基づく訓練の企画

・訓練がより安全にできるよう、企画段階から感染管理認定看護師をメンバーに取り入れ、感染防止対策を徹底した訓練を企画。

Confront With a Beave Heart
—勇敢な心で立ち向かう—

【訓練重点項目（青森特色）】

1. 実施日

令和4年10月7日（金）・8日（土）

2. 実施場所

青森市、五所川原市

3. 訓練想定

令和4年10月7日8時30分、青森県内陸部の入内断層帯を震源とする地震が発生し、青森県青森市で最大震度7を観測した。

この地震により、青森市を中心とする青森県内中心部の市町村では、建物倒壊、火災、土砂災害等による人的・

物的ともに甚大な被害が発生した。

青森県内の消防機関は青森県消防相互応援協定に基づき、県内応援隊を出動させた。また、青森県知事は、被害が甚大であることから、青森県内の消防力のみでは対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援要請及び自衛隊に災害派遣要請を行った。

4. 実施内容

(1) 消防応援活動調整本部等設置運営訓練

想定地震発生後に、青森県庁に消防応援活動調整本部を、青森地域広域事務組合消防本部及び五所川原地区消防事務組合消防本部に指揮本部及び指揮支援本部を設置し、応援要請等に係る情報伝達、受援調整及び緊急消防援助隊の部隊活動調整等について、図上訓練を実施した。



【消防応援活動調整本部（青森県庁）】

(2) 参集訓練及び受援対応訓練

ヘリコプターによる指揮支援隊の指揮支援本部参集を実施するとともに、事前に進出拠点は示さず、当日にDJS等使用できる機器を最大限活用した情報共有体制の構築を行うなど、より実災害に近い訓練を実施、また、進出拠点における燃料補給訓練についても併せて実施した。

なお、北海道大隊の一部部隊について、海上自衛隊多用途支援艦「すおう」による部隊輸送訓練も併せて実施することで、災害発生時の連携について確認した。



【部隊輸送訓練（海上自衛隊大湊地方隊）】



【機動隊との連携活動（新中央埠頭）】

（3）部隊運用訓練

指揮支援部隊長の部隊統制の下、同時多発的に発生した災害をブラインド型訓練で実施することにより、緊急消防援助隊の指揮能力及び活動能力の強化を図るとともに、各関係機関と連携強化を目的に、低床な消防車両が進出困難な活動場所における、自衛隊輸送艦による部隊輸送、資機材搬送及び傷病者の搬送等を実施した。

また、民間重機の協力による道路啓開や、コンクリートミキサー車の協力による消防水利の確保など、災害時の協定に基づく連携体制の確認を行った。



【消防団、民間団体との連携活動（合子沢記念公園）】



【自衛隊との連携活動（志田内海(榎)採石場）】

（4）後方支援活動訓練

新青森県総合運動公園において、汚染・感染予防を考慮した訓練を実施した。

また、拠点機能形成車を活用した道県大隊長作戦会議を実施することにより、活動時の課題となる、後方支援活動における施設の使用に係る代替設備としての役割等を確認した。



【拠点機能形成車（大崎地域広域行政事務組合消防本部）】

5. おわりに

今回の訓練は、感染症感染防止対策を徹底した環境下における、消防応援活動調整本部等の設置・運営をはじめ、各訓練項目にブラインド要素を多く取り入れることで、指揮能力、情報共有・連携力の向上を図るため、より実践的な訓練となるよう計画した。

今後、今回の訓練で得られた成果や課題等を踏まえ、緊急消防援助隊の応援体制の更なる充実強化に努めていく。

最後に、本訓練開催に際し、多大な御協力を賜ったブロック各道県、参加各消防機関及び関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

問合せ先

防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
TEL: 03-5253-7569（直通）